

ムサビの教員が選ぶ
美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

デザイン情報学科
新保韻香准教授

今回美大生におすすめしたい本は、教育や芸術などのジャンルの本を数多く出版している南インドの出版社、タラブックス (Tara Books) のハンドメイドの絵本です。

インドの職人たちの手によるハンドメイドのタラブックスの絵本は、手漉きの紙に1ページないしは、1見開きごとに多色刷りのシルクスクリーン印刷で刷られ、1冊ずつ手製本されている。現代では本を印刷する際に1枚の紙に16ページの面付けをして一瞬で刷られてしまうオフセット印刷が主流であるからこそ、大量注文にも屈さず、高品質を保ち、途方もない時間をかけ出版を可能にしているタラブックスのハンドメイドの絵本は、40人ほどの小さな組織を維持しながら製作され、独自の世界観を貫いている。

絵本の本文に配された絵はページをめくるたびに、まるで額に取められたアート作品を間近で鑑賞できるような、なんともいえない贅沢で幸せな気分私たちに誘 (いざな) ってくれる。さらに本とかたちになっているからこそ、手漉きの紙のザラザラした触感を楽しみ、シルクスクリーンで刷られた絵の少し盛りあがったインキの軌跡を手でなぞるように触れることもできる。そこからインドの土着の人々の文化や自然、動物など生きとし生けるものたちの尊く、力強いエネルギーを絵本のストーリーとともに、ダイナミックに感じとることができる。

このデジタル隆盛の時代だからこそ、本というプリントメディアとしての価値をあらためて問いなおし、唯一無二の存在として価値を見いだしているタラブックスの絵本たち…。皆さんもぜひ、タラブックスのハンドメイドの絵本を通して体感してください。

『The Night Life of TREES』

[artists], Bhajju Shyam, Durga Bai, Ram Singh Urveti ;
[text adapted & edited from the original Hindi narratives
by Gita Wolf and Sirish Rao]. Tara Pub, 2006.



インド中央部に住むパルダーン・ゴンドという先住民族が描くゴンド画で描かれた絵本。3人のゴンド画家が子どもの頃から身近にあった木をモチーフに聖なる木々の夜の姿をめぐる物語を描く。手漉きの黒い紙に不透明インキで刷られるシルクスクリーン印刷だからこそ、ゴンド画の魅力的な夜の木々の表現を可能にしている。

『夜の木』は、タラブックスの中で最も人気のあるベストセラーとなっており、英語版だけでなく、日本をはじめ世界8カ国で翻訳され、累計11万部をハンドメイド本で出版している。



シールの貼ってある資料は貸出不可

『Creation』

Bhajju Shyam ; with Gita Wolf,
Tara Books, 2014.



ゴンド族に伝わるこの世の万物の創生神話を語った「見る詩集」。誕生と死の循環、宇宙の創造と人間の営みや自然を見開きに1つずつゴンド画で描かれ、解説のテキストが添えられている。

初版は1万8,000部、ハンドメイド本で出版され、日本をはじめ、世界5カ国語で翻訳されている。1冊につき75回のシルクスクリーン印刷による手刷り作業が必要なため、初版の1万8,000部では合計135万回におよび、印刷・製本に8ヶ月を要した。

『Waterlife』

Rambharos Jha ;
[English translation, Suseela Varadarajan], Tara Books, 2019.



『水の生きもの』

ランバロス・ジャー著 ;
市川恵里訳・河出書房新社, 2013.



インド東部ビハール州の伝統芸術であるミティラー画を描く画家、ランバロス・ジャーの生まれ育ったガンジス川のほとりの情景を描いた絵本。シルクスクリーン印刷による、繊細な線で描かれた水の生きものたちは、独特なカラーの配色で刷られ、読む人の心を驚掴みにする。日本語版の装幀・本文デザインは名久井直子によるもの。

『Gobble You Up!』

based on a Rajasthani folktale /
rendered by Sunita and Prabhat ; art, Sunita ;
text, Gita Wolf. Tara Books, 2013.8



インド西部ラジャスタン州のミーナ族の画法による絵本『Gobble You Up! (たべちゃうぞ!)』は、作家であるギータ・ウォルフとミーナ画家のスニータの絵によるもの。特徴的な表紙の絵は、さまざまな生きものをまる飲みしたジャッカルの様子が描かれており、インドに古くから伝わる聖獣、複合獣を想起させ、インドの伝統文化と歴史に重きをおいているタラブックスの姿勢を垣間見ることができる。

ミーナ画はミーナ族の家の土壁と床に白一色で描かれるが、この絵本ではデザイナーの提案で茶色のクラフト紙にジャッカルの色を黒1色にし、まる飲みした生きものをミーナ画の基本色である白1色で表現しており、シルクスクリーン印刷ならではの版分けと色設計がなされ、ハンドメイドの美しい絵本に仕上げられている。

『世界を変える美しい本 =

Beautiful books can change the world :

インド・タラブックスの挑戦』

ブルーシープ, 2017



2017年に日本でタラブックスの展覧会『世界を変える美しい本 タラブックスの挑戦』が板橋区立美術館で開催された。本書はその展覧会図録となっている。タラブックスのこのような大規模な展覧会は日本では初めてのことで、当時はかなり話題を呼んだ。展覧会では、絵本や原画も展示されていたが、原画から版を起し、紙やインキの色の選定をデザイナーが熟考し設計しており、作家とデザイナーとの共作だからこそ、シルクスクリーン印刷の効果が十分に味わうことができる絵本を目指していることがよくわかる展示であった。

巻末にはタラブックスのこれまで出版してきた書籍一覧が掲載され、手に入れることができるので興味のある方はぜひ参照していただきたい。